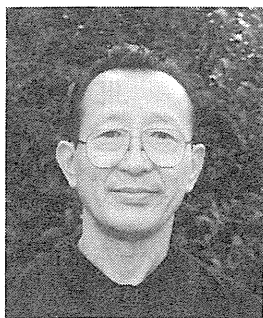


21世紀に向けて

理事長 木村 戦太郎

先の第32回通常総会では、新事業計画および運営組織をご承認いただき、有難うございました。JID NEWSの紙面を通じて一言、新理事長としての状況認識と抱負を述べたいと思います。さて今期は、20世紀から21世紀にまたがる記念すべき2年間となりますが、同時に難しい2年間でもありましょう。



今、新しい社会像・価値観を求める動きが世界中で始まっています。それは、これ迄我々が推進して来た近代工業化社会が直面する危機的状況から誰も逃れることは出来ないからで、近い将来に解決しなければならない差し迫った問題でもあるからです。特に我が国に於いては、環境問題・少子高齢化が大きな問題であり、老人や青少年の家族との絆も問われています。

環境問題は、現代の大量生産・大量販売のシステムが、大量廃棄を前提としている事に起因しています。三菱総研では、これ迄の経済システムを「河川型経済システム」と呼び、これからは「湖沼型経済システム」を指向すべきだとしています。「河川型経済システム」では、自然界から採取した資源を加工して製品を生産し、使用後は廃棄物として自然界へ廃棄しています。

日本の住宅は30年弱で更新・廃棄されています。我国は世界のゴミ焼却炉の75%が集中するゴミ大国でもあるのです。日本の少子高齢化のスピードは世界一と言われ、2100年に人口は5~7000万人に半減すると予測されています。これに連動して65歳以上の人口比率は、1995年の14%強が2015年には25%に達すると予測されており、超高齢化社会が目前に迫っています。家族の絆の綻びは、近代合理主義がもたらした物質的豊かさと個人主義とは表裏の関係にある、と言えましょう。華やかな夢や可能性の情報が溢れ、必死に走り続けて傍に人々を思いやれない、現代はそんな時代でもあるようです。

では、新しい社会像のイメージとそこに至るプロセス、そこでJIDがデザイナー集団として果たすべき役割とはどんなものなのでしょうか？マクロな視点からは「農業と工業のバランスを適当な地域の中で実現して各々の廃棄物を工業的素材として、又はエコロジカルにリサイクルし、エネルギーや製品の大量・遠距離輸送は行わない」と言う社会像があります。

具体化のプロセスは始まったばかりです。企業や団体の枠を超え、行政や市民グループとの連携も必要でしょう。我々は今、エンドユーザーとも直に触れ得るインテ

JID NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

2000

8・9

「目次」

● 新理事長抱負	1
● 新理事就任にあたって	2
● 平成11年度第4回理事会報告	5
● 平成11年度第5回理事会報告	7
● 平成12年度第1回理事会報告	9
● 第32回通常総会議事録	10
● IFFT 2000メンバー参加のおさそい	11
● 第32回通常総会・懇親会開催	12
● お詫びと訂正	13
● 住まいのインテリアを考える会活動報告	14
● JID NEWS 中部	14
● JID NEWS 関西	14
● JID NEWS 関東	15
● JID NEWS 九州	18
● 新入会員の紹介	20

リアデザイナー集団として、環境問題・高齢化・人間的空間作りなどに積極的に取り組み、成果を発信すべきです。このような変革の時代は一歩前に入る意欲が活路を開くと信じます。

我々がこれまで各々積上げて来た素材や施行に関する情報や、使い勝手などに関する経験の情報などの蓄積を整理統合することで、貴重なデータが得られましょう。それらをコアとして、ユーザーや関連業界とも連携し行政にも働きかけましょう。これらの取組みの先に我々のビジネスチャンスも生まれ、ユーザーや業界の未来、そして地球の未来もある筈です。現在、ユーザーと企業の意識・価値観に差があると言われます。我々はそこに21世紀につながる「共生」の橋を架けるのです。会員各位の協会活動への積極的ご参加をお待ちしています。

新理事就任にあたって

総務担当理事 秋山 修治

平成12年度から2年間、理事の役割を担うことになりました。よろしくお願いいたします。私自身のことでは、JIDの会員になってほぼ30年余りになるかと思ひます。入会した頃のデザイン界は、70年の大阪万博の前夜でデザインが、技術が、具体的に社会に対して大きな役割を期待され、それなりに各デザイン団体が活動していたように思ひます。そんな中、インテリアデザインの職能団体を社会に広く認識してもらおうとJIDの本格的な出版物「日本のインテリアデザインI」の出版に係わったことがありました。

その後、社会が急速に成熟しデザインもより認知され一般化されると共にデザイナーのフィールドも多岐にわたり各会員個々人が様々な状況でデザインと向き合っているのではないのでしょうか。デザイナーの個別化が進み、経済的な背景も個別化し、以前のようなインテリアのデザインという一つの旗印のもとに集まりにくい状況が在ると考えられます。このへんに今のJIDのかかえる各種の問題があると思ひます。

現在、色んな状況を包含し、JIDがより洗練された団体へと変化して行くことが求められているのではないのでしょうか。そんななか、インハウスとしての立場もあり、どのようなことができるか解りませんが、総務担当という視点から微力ながらJIDの発展に努力したいと思ひます。

本部 国際・交流委員会

担当理事 川上 玲子

新組織発足と同時に、この秋バリ島で開催されるアジアのスペースデザイナーの集まり『APSDA会議』、2001年には『IFI』の総会がアフリカで開催されるため具体的な準備をスタートさせなければなりません。

国際と交流の二つの委員会をボーダレスにして相互関係を生かしながら会員のメリットにつなげることを目標に今後の計画を実施していきたいと考えています。

デザインに携わる国内、海外の人たちと積極的に交流を持ち、視野を広げる場の拡大、年齢や、人種を超えて『デザイン』という仕事を通じて影響しあえるコミュニケーションは私達にとって大切な要素だと思います。

これからの魅力あるJIDにしていくためには、私達の委員会もオープンな場であり、会員が興味を持っていつでも参加出来るチャンスを作り、さらに他の委員会との相互協力をえて横のつながりを密に、新鮮な企画を立てていくことは、JID内にとらわれず、他の分野に対して

も刺激あるものになることを望んでいます。

グローバルにもものをとらえ国際的な視野でデザインを考えながら日本の社会に貢献していくことは、今の私達にとって重要な課題の一つではないでしょうか。

JID本部教育・研究委員会

Bグループ担当理事 須長 壮太郎

今年度から本部教育・研究委員会は、ABCの三つのグループに別れ、教育・研究について幅広く、また詳細な活動を目指していく事になりました。Aグループは、加藤力委員長（山崎晶担当理事）を中心に「低学年（小学校児童）を対象にしたインテリア教育の為の分かりやすい本（教科書）の研究作成」を行います。Bグループは、藤原啓亮委員長（須長壮太郎担当理事）を中心に「ヨーロッパ・アメリカの新しいデザイン教育の動きについて探りながら、高校から大学、専門学校へと進む若者を対象としたデザイン教育のあり方について」の調査や講演会を開催しまとめをします。Cグループは、菅原孝則委員長（山本棟子担当理事）を中心に「高齢者やユニバーサルデザインをも含めたヒューマナイズデザインについて」調査し研究をまとめます。

このように3つのグループが異なった各年齢層を対象にインテリアデザインの教育と研究活動を行う計画です。また、研究方法はセミナーや講演会、出版やレポートにまとめると言った発表方法を現在模索しているところです。Bグループでは、その基本テーマを「自由な発想」、「ヒューマンな心」とし、我々に必要なインテリアデザイン教育・研究について考え、そこにある多くの疑問点や改善点について提示し、今後の活動の幅を少しでも広げられる成果が得られる事を目指したいと思ひます。

先日、名古屋の写真家である白井薫氏の「戦後を生きた子供達」の写真集を見る機会がありました。そこには戦後の貧しい時期に、必死で「今日一日をどう生きるか」、遅く生きる子供達が生きいきと写し出されていました。その子供達の遊びの中には、現在のように危険を誰かが取り除くのではなく、自ら察知しながら、創造的で工夫に溢れた遊びがあり、「自分の責任で遊ぶ自由」を楽しむ姿がありました。一方、今年に入って北欧の大学のデザイン教育に関して体験する機会がありましたが、その実に楽しくユニークで「遊び」を感じさせる試みが、しかも大学のデザイン教育の現場で行われているのに驚かされ、視野を広げられた思いがしました。そこには自主的な発想や工夫に、プリミティブな生命力と共通する力強い創造性を感じさせるものがありました。「遊び心のある・自由な発想力のある教育」は、多くの方々が関心をもたれているデザイン教育のテーマであると思ひ

すが、今後若い人たちがインテリアデザインに関心を持つ大切な軸になると思います。

今後は3つのグループが各テーマに分かれ、それぞれの活動目標に向かっていきますが、相互に影響しながら研究を進めていく事を前回の委員会を確認しました。また、これらのテーマに興味や御意見をお持ちの方々の参加をお待ちしております。二年間の短期間ですが、できるだけ研究成果を資料としてまとめるよう活動して参りますので、今後ともJID本部教育・研究委員会の活動にご支援下さいますようよろしくお願い致します。

関東支部担当理事

長岡 貞夫

JIDに席をおくものとして、あらためて次の4つのキーワードについて考えを巡らせてみたい。それはソース：資源、プライオリティ：優先順位、ネットワーキング：関連づけ、モチベーション：動機又は主題である。

リソース、ここでは人的資源に限定する。現在JIDは賛助会員、ユース会員を含めて約800有余人の人達の集まった組織である。それぞれ個性的であり、豊かな人間性のもち主である。

この組織はヒエラキのないフラットなシステムである。しかし運営、管理、責任上ピラミッド型となる。

JIDは人材の宝庫といえる。このリソースを確固たるモチベーション（社会的にインパクトが期待できる事象）のもと、如何にネットを組み運営するかがJIDの変わらぬ課題と吉えよう。

京大の霊長類研究の論を待つまでもなく、集団の一般論として、人は群れたがる。群れは共通意識と互いのコンセンサスの基盤をもつが、往々にして好き嫌い、相性、利害といった不安定な個の感情・心理、欲などで群れるのが実態のようにも思われる。そしておおむね群れの内部ではかばい合い癒し合いながら結束を強固にして城を築く。群れには功罪がある、意を同じくする者（知的テイストが共通であることが望ましい）が一同に会し互いの才能を補完し集団の中での個を生かしながら成果をあげる、群れ性善説。一方、群れの結束が強固になればなるほど排他的になりがちで、他の群れとの知的な融合を阻害する、群れ性悪説である。つまり群れにはこ二重人格的自己矛盾があり、ひと筋縄にいかない複雑さが内在する。しかし、この複雑さが多様なエネルギーとも考えられよう。

限られた原資の有効利用のためのプライオリティ、その判断のための動機づけ、組織の流動的な運用など、会の発展のために一翼を担えればと思案している。

自戒―「深い穴を掘るには大きな穴を掘れ」「忍耐」

理事就任にあたって

山永 耕平

今回、思いもしないことから九州事業支部担当理事に選出されましたが、本来入るべくもない身に余る多数の票をいただいたのは中川元理事の思わくの結果であり、私が適任であるかいまだ不明であります。

周知のことですが、19世紀中葉に始まったウィリアムモリスによるアーツアンドクラフツムーブメントはデザインの大衆化の始まりでもありました。限られた階級のごく少数のものだけが享受できたデザインを一般大衆の手の届くものとする。JID設立の目的にもうかがえるものでありますが、予想だにできなかったスピードと量の情報化がもたらした大衆化社会の到来によって、デザインがどこにでもあるあたりまえのものとして現実化し、結果、その価値の変質をうながすようになりました。

マス化した時代に少数精鋭の、組織の存在はどうあるべきか、JID、そして九州事業支部にかぎったことではないかもしれませんが、地域とか国家など経験の枠を越えて、直接個人がグローバルな世界へさらけ出される。21世紀を目前にして、日本もいつの間にか成熟した社会へと向かいつつあるのかもしれない？未知なる世界への期待と不安が交差する一方で、全く価値観を異とする新しい世代が成長しているのも確かなようです。

新・理事として思う

集まって沢山議論をしましょう。

本部・教育・研究委員会担当理事 山崎 晶

図らずも理事を仰せつかり身の引き締まるのを覚えます。40年の歴史の力を納得しています。時間は人を育て、人は組織を育てます。継続は力といわれますが、今のJID会員の顔ぶれを見れば、40年という時間が確実にこの協会を育てたことがわかります。時間とともにここから敬意を表し、継続の責の重さを痛感しています。

いまさら大風呂敷をひろげてどうなるものでもなく、理事として最小限の責任を確実に努めてまいるつもりであります。理事の役割、本部の役割を実行のなかで見直してみようとも思います。

現状を正しく認識することから出発しましょう。その認識が曖昧だから行動のコンセプトも的が外れるし、方法論も間違ってしまう。現状認識は人さまざまでいろいろな意見があるでしょう。集まって沢山議論をしましょう。集まることが一番大切なことだと考えます。

IT時代の情報はコンピューターを使っていくらでも入ってきます。情報量はますます増えていきます。でも人から人へでなければ伝わらない情報もたしかにあるので

す。人間の持つコミュニケーションのツールはかけがえないものです。

デザイナーという特定の職能の集まる組織にあつては(利害を伴う仕事で)ひとつの仕事を共有すること(共同作業)はなかなかできません。いっしょに仕事を共有するよりもお互いの仕事振りを知り合うこと、理解しあうこと、それを自分の仕事に活かして行くことが大切ではないかと考えています。

この度本部教育・研究担当を拝命しました。このチャンスを私なりに活かしていきたいと思っています。沢山の方々とお話しできるのを愉しみにしております。

会員プロモーション委員会

担当理事 中川 帛子

聞き慣れない名前の委員会のようなのですが、前期まで“会員ワーク集出版委員会”が行ってきた事業と、会員名簿の発行、およびオゾン展の企画実行を統合して生まれた委員会です。

これまで特別事業扱いだった会員ワーク集や名簿の継続発行、及び開催の恒例化が望ましいオゾン展などは、視点を変えてかて見みればJID会員個人の存在を社会にPR、プロモートすることにほかなりません。これらの事業を連携しながら効率のいい会員プロモーション事業を展開できるような新たな枠組みの委員会“会員プロモーション委員会”を提案しました。5月の総会で新委員会の事業計画が承認され、担当を仰せつかりました。委員長は丸屋芳正氏(関東支部)です。

JIDのメディアを使って、会員全員の最新活動情報が正確に迅速に社会に伝わる為の仕掛けが必要と考えます。それには会員各位からの資料が必要です。それをもとにデータベースを構築し、必要な情報を発信できる準備をしてゆきたいと考えていますので資料ご提供の依頼が参りました際は、ご協力をお願いいたします。

21世紀のJIDに向けて

山本 棟子

2001年・新世紀に向けて、社会が大さく変わろうとしています。高齢少子社会、環境問題、IT時代……JIDもその波に乗り遅れないようにしようではありませんか。身近な環境について、常に関わってきたインテリアデザイナーの力が必要とされ、期待されている時代です。

インテリアデザインに関わる歴史ある協会として、何をすべきなのか、内外部の関係、一般へのアピール、職能のレベルアップなどなど、多くの課題があります。教

育・研究担当理事の一人として、会員の皆様と共に前進できればと考えています。

微力ながら頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

「JID ミート ザ ワールド」

国際委員会委員長 藤村 盛造

この度、旧来からの友人、木村さんが理事長を引き受け、何かお手伝いをしなければと考えていたところ、理事の川上さんや喜多さんから勧誘され計らずも国際委員長のお役目を2年間だけ期限をつけて引き受けることとなりました。よろしくお願いいたします。泉前理事長や中川帛子さんからも以前お誘い頂きましたが他の委員会の仕事が毎週のようにありとてもお手伝いできる状況ではありませんでした。本来はJIDの中にもっとご経験豊富な他の方がいらっしゃるのではないかと考えています。国際委員会の委員はこれから募集をかけてできるだけ多くの人たちが集まれるようにしたいと考えています。2年間は「つなぎ」の期間にして次の世代育成に努めさせて頂きます。

先日の第一回交流委員会との合同委員会できただけ多くの会員が集まれる委員会活性化の企画案が上がっています。幸いJIPAT東京インテリアプランナー協会の国際委員会委員長の梶田尚令氏(文教施設協会)とは同じJIPAT理事会のメンバー、情報交換がとりやすいので相互乗り入れができる企画を考えていこうと話合っています。

国際交流委員会は出さるだけ気軽に若い方々でも集まれるように考えていきたいと思っています。JIDの方々が国際的な交流を深め、仕事を通して理解していただくためにも外国での経験や事情に詳しい方々のご参加を歓迎しJIDの若い方々へ繋いでいただき、多くの方々が世界へ羽ばたいていただけるように願っています。事実デザインの世界はグローバルな考えなしでは立ち行かなくなって来ました。

「JID meet the world」

このコンセプトで様々な企画を立てていきます。第一回は9月にJIDの喜多俊之・川上玲子両氏にご登場願ひ、「イタリアのデザイン・北欧のデザイン」について豊富な経験談やお国の裏表などをお聞きし、懇親を深めたいと考えています。

多くの方々のご参加を期待しています。

〔 平成11年度第4回理事会報告 〕

- ①会議名：平成11年度第4回理事会
②日時：平成11年11月17日（水）13：30～16：00
③場所：JID本部事務局 会議室
東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F
④出席者：理事総数15名中（本人出席12名）
（理事長） 泉 修二
（副理事長） 中川帛子、夏原晃子
（理事） 今崎 務、岩倉榮利、
吉良ヒロノブ、小宮容一、
阪井良種、関 里繪子、中川千年、
中川千早、山本棟子
（委任） 浅野盛治、木村戦太郎、山口道夫
（監事） 栢原秀榮（欠席）、川上信二（欠席）
（事務局） 峰尾事務局長代理

⑤議事

峰尾事務局長代理より「理事総数15名中、本人出席12名、委任状出席3名で本理事会は成立した。」旨報告。理事長都合により遅れるため、その間副理事長が議長となり議題に入った。

1 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部（阪井）

「日本の生活デザイン展」の協力を実施、「JID関東ユース」設立について大学、専門学校12校38名の学生と会合、「第9回デザイン職人四方山話、渡辺 力氏」、及び「八王子建築技術試験所」見学等の実施を報告。また支部の委員会組織の見直しについて検討中と報告。

◆中部事業支部（関）

「日本の生活デザイン展」名古屋の実施、入場者5000人以上、図録は完売、盛況の内に無事終了。その他、活路開拓事業委員会のシンポジウムに協力したと報告。

◆関西事業支部（夏原）

「椅子'99展」を100脚にて開催、30,000人の入場者があり、記念セミナー「椅子を語る」を実施、参加者からは時間が短いと惜しむ声も聞かれるなど盛況であった。また活路開拓委員会により「環境共生時代におけるインテリアと住まい方」を開催、53名の出席者を得て盛会だったと報告。

◆九州事業支部（中川千年）

FUKUOKAデザインリーグ'99デザインキャラバンでデザイナーが小中学校に出かけて、デザイン授業を行い、デザインの大切さを体験させるため会員2名参加と報告。

◆総務委員会（書面にて）

選考委員会の呼び掛けにより、事業・広報両委員会とJID賞の贈賞式・展覧会についてミーティング、JID賞

の贈賞式と切り離して新春交礼会を開催予定と報告。

◆組織委員会（浅野理事委任出席のため書面による）

書面により下記2案が提案された。

①新入会員募集案内を作成し、現在のJIDパンフレットを補完するものとして、入会のメリットや文芸美術国民健康保険の特典等を記載する。

②退会会員を対象に再入会の呼びかける。

2案が提案された。②に関しては内容が議案に該当する件があるため、議長は②案は後半の議案として審議する旨了承を求め、理事会は了承した。

◆国際委員会（中川帛子）

9月30日～10月1日、第19回IFI総会（シドニー市）に中川副理事長が出席。17ヶ国が参加、DESIGN AID 99委員会に対して事業参加証が授与され白石委員長に代わり中川副理事長が受理した。また次期総会は2001年南アフリカ、2003年はインドに決定した。3団体合同国際会議「SYDONY DESIGN '99」は参加者延べ2千人程であった。JIDから参加者は中川副理事長1人、今後多くの人たちの参加が望まれると報告。（詳細はJID NEWS報告）

◆交流委員会（岩倉）

第5回デザイン供養を11月6日～7日鳥取県淀江町にて開催した。同時にJID会員による地元特産の傘のデザインも披露された。開催10年を迎え、今後協会としての取組みを見なおす時期に至っている。淀江町との共同行事継続も含め委員会で検討すると報告。

◆広報委員会（吉良）

インターネット加入現在35名程度でこれから増やす。賛助会員向けのインターネット広告を募集9月～10月で7社あり、今後更に募集を続けると共にパソコン教室、CAD教室等の案を計画していると報告。

◆出版委員会（山本）

新機関誌「インテリアデザイン FROM JID」の広告協賛依頼を賛助会員に送り広告を募る。会員からのアンケートを誌面に情報反映を検討する。現在各方面に執筆を依頼、原稿をまとめると報告。その他全会員に対するファックス一斉同報サービスを提案、これに関しては総務委員会及び事務局で検討する。

◆事業委員会（木村）

選考委員会の要請により組織、広報、事業の各委員会の参加でJIDシリーズ展第2回「1999年JID賞」の作品展示する(OZONEデザインギャラリー)。

その他「'99国際家具見本市」の特別展示

特別展示テーマ1. 有機的健康空間「オーガニックライフ」

テーマ企画：中田重克、デザイン：小野由紀子、中山博文

特別展示テーマ2. インテリアデザイナーが薦める「ホームオフィス家具体験コーナー」

企画：木村戦太郎、デザイン：藤村盛造、山本英嗣

尚、中山博文会員は11月4日、開催を前に急逝された。

「JAPANTECH 2000」特別イベントは今回6名の個人に企画依頼された。内JID会員は3名。

◆教育・研究委員会（中川千早）

JIDニュース等のFAX一斉同報に関する提案書についての報告、活路開拓事業セミナー（横浜）への協力、推薦図書アンケートについて継続してアンケートを募集し百冊の推薦リストを作成の予定。又第1回研究会「インテリアデザイナー必読の書から」演題「日本のマンションにひそむ史上最大のミステーク」を実施。

◆デザイン保護委員会（小宮）

第2回デザイン保護研究会を11月25日に開催の予定、議題「著作権について他」で安藤 孚委員が出席の予定。

◆40周年記念事業実行委員会（泉、岩倉）

来年に入って40周年記念事業報告書を36頁程度で出す予定。

◆活路開拓事業委員会（中川千早）

シンポジウム1「環境共生時代におけるインテリアと住い方」（大阪）を実施、関西の交流委員会主催で懇親会が開催された。

シンポジウム2「インテリアとしての自然素材とデザイン手法」（福井）

以上の2件を実施、多くの出席者を得て成功した。今後第3回を横浜で1月28日実施の予定で、その後デザインガイド及び報告書を作成の予定。

◆選考委員会（書面にて）

本年は大賞がなく、昨年に比べレベル的には低調であった。2000年1月6日～11日にOZONEリビングデザインギャラリーで「1999年JID賞：入賞作品展/JID賞の歩み展」を開催すると報告。

(2) 平成11年度収支状況報告（9月末日現在）

平成11年度収支（9月末）報告及び40周年記念事業収支（9月末）報告について事務局長代理より報告。

(3) 中間会計監査報告（10月26日）を事務局長代理より報告。

(4) 旧名誉会員定款改訂に伴う資格選択の件について結果を事務局長代理より説明。

(5) その他

渡辺 優会員（関東事業支部）平成11年度デザイン功労者表彰（通商産業大臣）を受章、平成11年10月14日
訃報：中山博文（関東事業支部・正会員）

平成11年11月4日没 享年52歳

高須英彦（関東事業支部・元名誉会員）

平成11年10月1日没 享年76歳

湯山武太郎（関東事業支部・元名誉会員）

平成11年11月6日没 享年87歳

清水 武（関東事業支部・元名誉会員）

平成11年11月15日没 享年89歳

・事務局、年末年始休業 12月29日（水）～1月4日（火）

・JIDニュース（209号）、12月末発行予定。

現在、関西山口理事のところまでまとめている、今後JID NEWSをどこの部所が担当するかを検討することになった。

・次回理事会予定（第5回）平成12年1月19日（水）又は1月26日（水）のどちらかにする。決定は新春交礼会との調整を図り決定する。

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第1号議案 協賛後援名義承認の件（6件）

◎第29回店舗総合見本市「JAPAN SHOP 2000」

2000年2月29日（火）～3月3日（金）

主催 日本経済新聞社、(財)日本店舗システム協会

◎第49回「東京インターナショナル・ギフト・ショー春2000」

2000年2月2日（水）～2月4日（金）

主催 (株)ビジネスギフト社

◎第23回「大阪インターナショナル・ギフト・ショー春2000」

2000年3月1日（水）～3月3日（金）

主催 (株)ビジネスギフト社

◎「インテリアプランニング賞 2000」

2000年1月～9月

主催 (財)建築技術教育普及センター

◎「パイン デザイン プロジェクト (250㎡)」

2000年2月9日（水）～2月13日（日）

主催 静岡国際家具交流会、北欧木材協会（NTC）、デザイナーズ12

◎「第10回クラフトマンズヨコハマ展」

2000年3月31日（金）～4月1日（土）

主催 クラフトマンズヨコハマ

議長は承認を諮り、全員異議なく承認した。

第2号議案 会員入退会承認の件

事務局長代理が下記5件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

正会員・再入会（1件）

池崎 照夫（関東）推薦人：峰尾 武・入江 満

正会員・退会（4件）

石松 軍人（九州）長澤 法子（関東）浜野 敏彦（関東）橋口 敏雄（関東）

第3号議案 議事録署名人選任の件

議長は中川帛子、中川千早両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

第4号議案（臨時）本部組織委員会より提案。

再入会会員の入会金その他に関する件

1. 入会金 現行の入会金の半額とする。

2. 会員番号 新番号とする。

3. 退会期間 制限なし（但し退会時に会費を完納していること）

4. 推薦人 2名（会員）

5. 作品 提出の必要なし。
6. 理事会の承認 受ける。
議長は承認を諮り、全員異議なく承認した。

平成11年度第5回理事会報告

- ①会議名：平成11年度第5回理事会
②日 時：平成12年1月26日（水）13：30～16：00
③場 所：JID本部事務局 会議室
東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F
④出席者：理事総数15名中（本人出席13名）
（理事長） 泉 修二
（副理事長） 中川帛子、夏原晃子
（理 事） 今崎 務、岩倉榮利、
吉良ヒロノブ、小宮容一、
阪井良種、関 里繪子、中川千年、
中川千早、山口道夫、山本棟子
（委 任） 浅野盛治、木村戦太郎
（監 事） 栢原秀榮（欠席）、川上信二（欠席）
（事務局） 峰尾事務局長代理
（傍 聴） 佐々木恵子、山崎 晶

⑤議 事

峰尾事務局長代理より「理事総数15名中、本人出席13名、委任状出席2名で本理事会は成立した。」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

Ⅰ 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆ 関東事業支部（阪井）

JIDインターネット参加者募集、「JID関東ユース」設立について大学、専門学校7校15名出席、学生代表15名設立準備委員に任命及び学生だけの会議開催したこと、支部の新組織案を資料により報告。

◆ 中部事業支部（関）

インテリアルネッサンス21イベント“BRUTUS”編集長斉藤和弘氏の講演に参加。デザイナーズクリスマス'99に各デザイナーのオリジナル作品展示販売等の実施したと報告。

◆ 関西事業支部（夏原）

コクヨCOMPETITIVE WORKPLACEの見学会に参加、後コクヨ迎賓館にて交歓会をもった。その他、広報・出版委合同『ECHO』13、14号編集会議／第4回支部運営委員会実施／組織・総務・交流委合同会議を開催し、次回フォーラムの実施、支部活動部会制についての協議及び支部役員選挙に向けてスケジュール等を協議した旨報告。

◆ 九州事業支部（中川千年）

FUKUOKAデザインリーグ'99 デザイナーの玉手箱：テーマ「デザイナーからの提案」に作品を出品展示（会員個人として参加）及び次期支部役員選挙の開票を実施した旨報告。

◆ 総務委員会（山口）

総務・交流委員会、関東事業支部との合同委員会で2000 NEW YEARS PARTYの1月実施の開催を検討、1月26日開催予定、会場で40周年記念事業及び各事業支部の活動状況をパネルにて展示する旨報告。

◆ 組織委員会（浅野理事委任出席のため書面による）

新入会員募集のリーフレットの作成、現行のJIDパンフレット・入会案内に掲載されていない近年の活動をアピール。又会員の特典等を解りやすくしたものを作成、その他福利厚生サービス、ビジネスサポートシステムの検討に関して書面にて報告。

◆ 国際委員会（中川帛子）

「来るべき2000年の環境デザイン世界会議」（韓国）が2000年11月8日～22日ソウル市にて開催、今までの世界会議では日本人の出席が少ないので協会メンバーの積極的な参加と日本人のスピーカーが多く出てほしい旨の発言。JIDニュース11、12号に国際委員会関連の記事を掲載したことを報告。

◆ 交流委員会（岩倉）

JID賞受賞パーティー、2000 NEW YEARS PARTYの協力、デザイン供養も10年目となり、今後「デザイン供養と淀江町のかかわり」についてJIDがどういう形で係わっていくか等今後の10年をどうするかを検討する旨報告。

◆ 広報委員会（吉良）

JIDインターネットの打合せを実施、国際委員会・関東事業支部等とジョイントしていく。又プロバイダーともインターネットのあり方等を検討打ち合わせていき、引き続き会員・賛助会員等の加入を増やしていく旨報告。

◆ 出版委員会（山本）

新機関誌「Interior Design FROM JID No.117」を11年12月末に発行。会員、関係機関に配布、それ以外にも日本女子大学50部ほか多数の購入者があり、今後とも増加すると思われる。これをまとめるに当っては委員長はじめ関係者の多大な協力があつた。又今回エディターをたのみ、エディトリアルデザイナーの参加を得たことが良かった。又協賛広告は20口を得た。今後もこの方向でやっていきたい旨報告。

◆ 事業委員会（木村理事委任出席の為書面にて）

OZONEデザインギャラリーへの企画に関して1月6日～11日に「入賞作品展／JID賞の歩み展」が開催された。「入賞作品展」に関しては毎年恒例の展覧会として位置づけをOZONE担当者に要請し内諾を得た。又JIDシリーズ展企画委員会は事業委員会の中に置く方向で検討する。その他「'99国際家具見本市」の特別展示テーマ1：「オーガニックライフ」と展示テーマ2：「インテリアデザイナーが推薦するホームオフィス家具・体験コーナー」の両方とも盛況のうちに終了したこと等報告。

◆教育・研究委員会（中川千早）

推薦図書アンケートについて提出された図書はリストに加え、継続してアンケートを募集し百冊の推薦リストを作成する。又第2回研究会は「インテリアデザイナー必読の書から」演題「老人のための居住空間」イギリス政府編を講師に下島資子会員で実施した旨報告。

◆デザイン保護委員会（小宮）

日本デザイン団体協議会・第2回デザイン保護研究会を11月25日に(社)日本ジュウリーデザイナー協会で開催、安藤 孚委員が出席、各委員と著作権に関する解釈、考え方の意見交換し、会員に「著作権についてどう考えるか」についてアンケートを実施、集約することとした旨報告。

◆40周年記念事業実行委員会（泉）

事業がすべて完了し、2月を目途に報告書をまとめ、40周年記念事業報告書（JID NEWS 211号特集号）を出す予定。

◆活路開拓事業委員会（中川千早）

活路開拓調査現実化事業の第3回公開シンポジウムを11月28日にオンワード総合研究所 研修室にて実施、続いて11月29日第5回委員会で「エコ・インテリアデザイン・ガイドブック」の編集企画の内容及び報告書等について検討したことを報告。

◆選考委員会（書面にて）

2000年1月6日～11日にOZONEリビングデザインギャラリーで「1999年JID賞：入賞作品展／JID賞の歩み展」の開催、7日の「贈賞式」、「パーティー」の開催と協力頂いた委員会、会員に対しての感謝、来年度への抱負が書面にて報告。

(2) 平成11年度収支状況報告（12月末日現在）

平成11年度収支(12月末)報告及び40周年記念事業収支(12月末)報告について事務局長代理より報告。

(3) 選挙報告

次期役員、次期選考委員の確定者について事務局代理より報告。

(4) 平成12年度第32回総会までのスケジュールについて

事務局代理より配布した資料に基づいて説明された。

・平成12年度事業計画、収支予算作成

・現役員、次期役員予定者合同会議（平成12年3月1日／水に決定）

・第32回総会の開催予定(平成12年5月26日／金に決定)

(5) 次期役員予定者会議報告

本日午前中に開催された次期役員予定者会議について泉理事長より説明がされた。

(6) その他

・訃報：鹿島幸雄（関東事業支部・正会員）

平成11年6月6日没 享年56歳

大内一雄（関東事業支部・元名誉会員）

平成12年1月14日没 享年74歳

・JID NEWS（40周年記念特集号）発行予定（2月末予定）

・次回理事会開催予定（'99年度6回）

平成12年3月22日（水）

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第1号議案 協賛後援名義承認の件（5件）

事務局長代理が下記5件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「JAPAN SHOP 2000特別講座『甦る日本の商業 おしきせ利便の商環境はもう飽きた、次の主役はく街並み商業>』」

2000年3月3日（金）

主催 (社)商業施設技術団体連合会

◎デザインシンポジウム『SECTION 23』・『SECTION 24』

2000年2月9日（水）、2月22日（火）

主催 (社)日本商環境設計家協会

◎「吉野 山灯り（闇を彩る吉野・山灯りと千田要宗 杉の世界）」

2000年3月2日（木）～3月7日（火）

主催 クリエイティブ飛行船

◎「第2回インテリアライフスタイル」

2000年6月21日（水）～6月23日（金）

主催 メッセ・フランクフルト(株)

◎「第2回アンビエント・ジャッパン」

2000年6月21日（水）～6月23日（金）

主催 メッセ・フランクフルト(株)

第2号議案 会員入退会承認の件

事務局長代理が下記20件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

正会員・入会（1件）

井上 雅子（関西）推薦人：岩倉 榮利・小宮 容一

正会員・退会（15件）

川西 康司（関東）藤野 義弘（関西）荒居 康明（関東）加藤 雅士（関東）久志 宗昭（関東）辻本 達男（関東）帛屋 正（関東）中島 隆美（関東）萩野 招仙（関東）諸富 幸成（関東）山崎 慶昭（関東）前田千鶴子（中部）中原 澄征（関西）安井 忠生（関西）稲田 慎一（九州）

三輪 正弘（元名誉）長 大作（元名誉）2名に関しては既に定款上会員外で処理

賛助会員・入会（2件）

(有)エーディコア・ディバイズ（関東）

紹介者：剣持 和之・杉本真二郎

(株)コミュニケーション科学研究所（関東）

紹介者：中川 千早

賛助会員・退会（2件）

(株)龍村美術織物（関東）(株)ヨコタ 大阪事業所（関西）

第3号議案 議事録署名人選任の件

議長は山口道夫、山本棟子両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

平成12年度第1回理事会報告

①会議名：平成12年度第1回理事会

②日時：平成12年5月26日（金）13：30～15：30

③場所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

④出席者：理事総数15名中（本人出席13名）

（理事長） 木村戦太郎

（副理事長） 阪井良種、山崎 晶

（理事） 秋山修治、泉 修二、川上玲子、
吉良ヒロノブ、佐々木恵子、
須長壮太郎、関 里繪子、
中川帛子、山永耕平、山本棟子

（委任出席） 喜多俊之、長岡貞夫

（監事） 川上信二、中川千年

（事務局） 峰尾事務局長代理

⑤議事

峰尾事務局長代理より「理事総数15名中、本人出席13名、委任出席2名で本理事会は成立した。」旨報告。理事長が議長となり議題に入った。

1 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部（長岡理事委任出席のため、阪井理事が報告）
去る5月20日「関東ユース」発足式を実施、120名の登録があり、発足式並びに懇親会は盛況であった。特に若い人たちが意欲にみなぎっており、これからが期待できる。その他4月19日、5月18日本部総務委員会、関東事業支部総務委員会、関東事業支部事業推進委員会が合同会議を実施と報告。

◆中部事業支部（関）

3月9日、日本、オランダ交流400年記念「オランダ新人デザイナー展示会」開会式の実施に協力。4月7日、（社）日本インテリアファブリックス協会「ミレニアム2000インテリアサロン」金沢、を中部事業支部後援事業として実施。その他中部事業支部総会、及び懇親会を実施と報告。

◆関西事業支部（佐々木）

組織、交流、学生の会委員会来期計画について協議、関西事業支部内規改定協議、臨時運営委員会開催JID NEWS編集について、本部情報委員会委員として関西事業支部石原会員の参加もあると合意したと報告。

◆九州事業支部（山永）

平成12年度九州事業支部総会「博多町家」ふるさと館見学会、及び総会と懇親会の実施、2年に一度のJIDインテリアデザイン展に話題が集中し、今年は趣向を変えて行う。又今後の方向として毎年秋開催のデ

ザイングループのイベントに参加。その他退会者が増加しているが、これを食い止める方策を実施する。九州事業支部として全国的な本部事業にも参加していく方針と報告。

◆総務組織委員会（秋山）

第32回総会、第7回関東事業支部総会並びに総会後の懇親会の打ち合わせ実施と報告。

◆国際・交流委員会（川上）

喜多、川上両理事並びに、担当委員長と調整し事業を推進していくと報告。

◆情報委員会（吉良）

新規委員会体制について新メンバーの紹介及び事業引継ぎの実施、GIG 28との打ち合わせ（ホームページの編集をしている）。又、ぷららに対して大幅な減額をしてもらう。その他会員の写真パネルを募集してOZONEギャラリー等で実施したい（プロモーション委員会と調整）。又JID NEWS担当に広報委員会を設置し委員長に関西事業支部の石原 薫会員が当たると報告し、その後全員で広報委員会の設置、それに伴う委員長に石原 薫会員が就任することを承認した。

◆教育・研究委員会（須長、山崎、山本）

山崎、山本、須長の3理事の連携と、合同会議等できるだけ多く行い事業を推進すると報告。

◆デザイン保護委員会（泉）

新旧の引継ぎを実施、関東事業支部卯野木憲二会員が委員長となったと報告。

◆事業委員会（阪井）

IFFT国際家具見本市での特別企画提案に参加中と報告。

◆会員プロモーション委員会（中川）

新規委員会として新たな事業を推進すると報告。

(2) 第32回通常総会ほか進行予定

事務局代理より通常総会の進行についての提案があり平成11年度事業報告、収支決算報告、並びに役員改選については泉理事長が議長となり、後半の平成12年度事業計画及び収支予算案については木村新理事長が議長を務める。また総会資料の一部訂正については出席者には会場にて配布、その他の会員には後日送付することにした。総会後の懇親会について、秋山理事より資料に基づき説明がされた。

(3) 平成11年度会計監査報告

平成12年4月26日栢原秀榮、川上信二両監事による監査の検討結果、法人の収支状況および財政状態は全て正常であった旨、川上監事より報告された。

(4) 平成11年度権利停止予定者

平成11年度会費未納者リストに基づき32件確認、第32回通常総会で権利停止となる旨確認された。

(5) その他

阪井理事より、関東事業支部「関東ユース」のロゴマークについての提示があり、検討の結果、一部訂正を行

うこととした。

- ・計報：前原紀雄（関東事業支部・正会員）
平成12年2月4日没 享年55歳
- ・JID NEWS 5・6月号 発行予定（6月上旬）
- ・次回理事会開催予定（2000年度2回）
平成12年7月末予定

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

II 議案

第1号議案 協賛後援名義承認の件（4件）

事務局長代理が下記4件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎第32回工芸・デザイン研修会

「ルーマニア、ハンガリー工芸・デザイン研修の旅」
2000年9月20日（水）～10月1日（日）
主催 財団法人 工芸財団

◎第24回大阪インターナショナル・ギフト・ショー・秋 2000

2000年10月4日（水）～6日（金）
主催 (株)ビジネスガイド社

◎第11回照明フォーラム

「Lighting New Wave 2000－あかりの次世代トレンドを探る－」
2000年6月14日（水）
主催 (社)照明学会 東京支部

◎アスペン国際デザイン会議「IDCA IN GIFU 2000」

2000年7月8日（土）、9日（日）
アスペン国際デザイン会議 in Gifu 2000実行委員会

第2号議案 会員入退会承認の件（16件）

事務局長代理が下記16件について説明した。議長は承認を諮り、船曳悦子氏は会員規定2条（1）により今回入会が見送られた。また今西隆次会員の退会に関しては関西事業支部にて慰留することになった。他の14件に関してはいずれも異議なく承認された。今後入会資格に関しては、新しい考え方で会員規定等の改定と合わせて検討していくこととした。（全員承認）

正会員・入会（3件）

藤塚 光政（関東）推薦人：大野美代子・中川 千早
入山 明良（関東）推薦人：木村戦太郎・梶田 尚令
船曳 悦子（関西）推薦人：植松 暁子

正会員・退会（10件）

宮城 由紀子（関東）菅野 和弘（関東）宮代 紀子（関東）砂島 睦子（関東）今西 隆次（関西）山村 悟（関西）前田 捷美（関西）天本 静夫（九州）
関光 信也（九州）帆足 邦子（九州）

賛助会員・入会（1件）

バンタンデザイン研究所（関東）紹介者：石川 尚

賛助会員・退会（2件）

シーリーベッド(株)（中部）
東京デザイナー学院 名古屋校（中部）

第3号議案 議事録署名人選任の件

議長は、秋山修治、泉 修二両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

〔 第32回通常総会 議事録 〕

日時 平成11年5月26日（金）午後3時30分～5時

場所 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F
OZONE セミナールーム

議事経過

定刻3時30分、峰尾 武事務局長代理の開会の辞で開会した。直ちに「本日の正会員数539名、本日の出席者数50名、定款第25条による委任状提出者数268名、合計318名である。定款第23条による定足数は270名、よって本会は成立した」旨、成立宣言がなされた。

議事に先立ち、峰尾事務局長代理より定款第22条により、本総会の議長は、理事長がこれにあたる旨説明した。続いて受付けにて配布した総会資料の14頁、26頁の差し替えをお願いし、説明した。

続いて泉 修二理事長が挨拶に立ち、「平成11年度は、事業計画に沿って本部事業、特別事業、及び支部事業とも、景気低迷中にも関わらず極めて多くの関係各位のご協力、ご支援の下に実行され成功裡に完了したことは、大きな成果であったと挨拶、平成11年度事業報告（案）・収支決算（案）について審議いただきたい」旨述べた。理事長挨拶の後、議事に入った。

第1号議案

平成11年度事業報告（案）及び収支決算報告（案）、平成11年度創立40周年記念事業（特別会計）収支決算（案）、平成11年度中小企業活路開拓調査・実現化事業（特別会計）収支決算報告（案）、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録を配布された議案書に基づき、事務局長代理より、それぞれの内容について報告が行われた。引き続き栢原、川上監事を代表して川上監事より、去る4月26日東京において会計監査を行った結果が報告された。

以上につき、議長は総会に諮り、全員異議なくこれを承認した。

第2号議案

任期満了に伴う役員改選について、配布された議案書に基づき、事務局長代理より、候補者の説明が行われた。理事長に木村戦太郎、副理事長に阪井良種、山崎 晶、理事に秋山修治、泉 修二、川上玲子、喜多俊之、吉良ヒロノブ、佐々木恵子、須長壮太郎、関 里繪子、中川帛子、長岡貞夫、山永耕平、山本棟子、監事に川上信二、中川千年、以上を議長は総会に諮り、全員異議なくこれを承認した。

ここで議長を、泉 修二より木村戦太郎新理事長に移し

議事を継続した。

第3号議案

平成12年度事業計画（案）・収支予算（案）について議長より説明が行われた。以上につき、議長は総会に諮り、全員異議なくこれを承認した。

第4号議案

議事録署名人選任に関する件に対し、議長から腹案として、安藤 孚、菅原孝則会員（いずれも関東事業支部所属）が提示された。

以上につき、議長は総会に諮り、全員異議なくこれを承認した。

閉 会

事務局代理が挨拶に立ち、本日の議事案件の審議に対する協力に感謝する旨の謝辞が述べられ、定刻の午後5時、第32回通常総会は滞りなく終了した。

議事等の、詳しい内容に関しては事前に配布された、第32回通常総会資料をご参照下さい。

IFFT2000ワークショップメンバーへ 参加してください！

事業委員会 担当理事 阪井 良種
委員長 金杉 哲男

（社）国際家具産業振興会主催のIFFT2000（今秋）特別イベント展示計画コンペティションへの参加がJIDに依頼されました。

本年度のテーマである『21世紀のライフスタイル』をもとに本部事業委員会では討議を重ね計画案をまとめてきました。その結果、第1次（4/20）第2次（5/16）第3次（6/16）の審査をクリアしJID案が採用されることになりました。採用案『家族のコミュニケーションを育むインテリアデザイン』は現代社会の問題点のひとつである家族のコミュニケーションとインテリアデザイン（とくに家具デザイン）のかかわりを学術的視点・デザインの視点・空間的視点からトータルな構成になっています。

今後は採用案を具現化する実務が始まります。実務内容は会場実施プランニング／インテリア・家具プランニング&表現／データ情報収集&表現／ビジュアルプランニング&表現／会場設営&スタッフマネジメント・・・等なのですがとても現状のメンバーではたりません。

そこで、IFFT2000ワークショップメンバーではこれからの実務に参加してイベント展示計画を成功させるメンバーを募集します。これからのインテリアデザイン・家具デザインを提案、実現するには我々JIDメンバーの豊富な知識や感覚や行動が必要だと思ひます。

是非とも御参加ください！

◎問い合わせ先：本部事務局に御連絡ください。

◎募集期限 ： 8月25日

尚、応募多数の場合は現ワークショップメンバーにより選考させていただきますのでご了承願ひます。

●IFFT2000ワークショップメンバー

石川 尚／小野里 勉／金杉哲男／菅野民子／黒田秀雄
（7/10現在のメンバーは審査時期が緊急であった為、急遽構成されました。）

『ECO INTERIOR DESIGN BOOK』

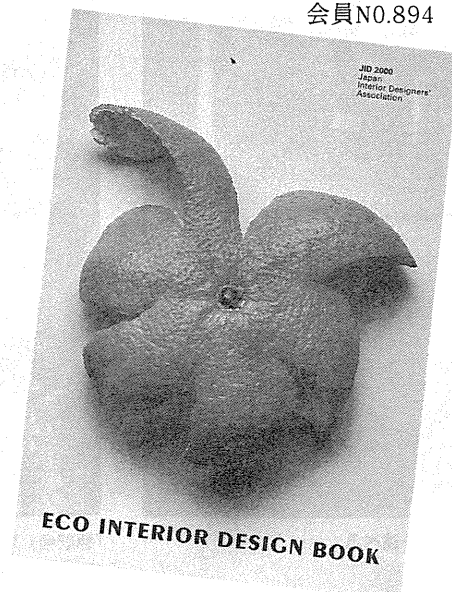
JID日本インテリアデザイナー協会
活路開拓実現化事業委員会発行の本がすばらしい

JID会員の皆さんのお手許に、黄色のハンドブックが届いたと思います。みかんの皮がボイと捨てられた何気ない可愛らしい表紙。しかし意味の深い写真ではないか、みかんの皮ひとつをとってもむだに捨ててもよいのだろうか。ジャムやマーマレードにしたり、注出した養分はビタミン剤や化粧品には成らないのか、動物の餌や有機肥料には成らないか、そんなことを考えさせられる。

そんな興味をもたせる本の中身は、やはり素晴らしい内容でした。インテリアデザイナーだけでなく、一般人、学生にも理解しやすいレベルで、幅広くエコデザインを説明しています。とっつきにくい、こむずかしい専門書とは一線を画し、イラストや写真もセンス良く、ハンドブックとして手軽に持ち歩ける本に仕上がっている。

当然の事だが古紙100%で大豆油インクを使用しているが、この質感も大変良い。しかし残念なことに、この本が我々だけの限定とは誠に残念です。一般書店で販売が出来ないのでしょうか、このままでも一般向きに出来上がっていると思います、けっこう売れると思います。ぜひ出版して下さい……。とも有れ出版おめでとうございます。関係者の方々ご苦労様でした。

会員N0.894 堀川 始



第32回通常総会・懇親会開催

本部総務委員会委員長 高川恵三郎

去る5月26日、新宿パークタワーOZONEセミナールームにおいて、第32回通常総会が開催されました。峰尾事務局長代理から平成11年度事業報告案並びに収支決算案の報告の後、新理事長に就任された木村戦太郎氏より、平成12年度事業計画案並びに収支予算案の説明があり、満湯一致で承認されました。

通常総会終了後、クラブスクウェアに会場を移し、恒例の懇親会を開催いたしました。木村理事長よりJID事業活動への抱負の挨拶からはじまり、ご来賓様を代表して、通商産業省生活産業局デザイン政策室振興班長 齋藤 優氏よりデザイン政策に関わるお話を頂きました。続いて、ご出席のご来賓様ご紹介の後、この度めでたく褒章を受章された諸先輩方々（白石勝彦氏、渡辺 優氏、坂田種男氏）の紹介と受章者を代表して元理事長の白石勝彦氏より喜びの挨拶を頂きました。その後、株式会社リビングデザインセンター松田社長の乾杯の音頭により和やかに歓談

が始まり、新入賛助会員の熊谷組の池田政勝氏よりご挨拶をいただきました。定刻の8時30分に山崎副理事長の閉会の挨拶に続き、数名の方々のフリートークで会場が盛り上がったところで閉会となりました。



「通常総会」会場風景



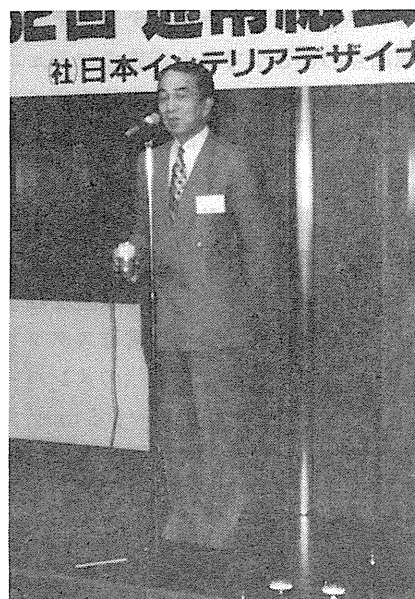
「懇親会」会場風景



「懇親会」で挨拶を述べる
木村新理事長



「懇親会」でご来賓代表として祝辞を述べる
通商産業省 齋藤班長



「懇親会」で乾杯の音頭をとる
リビングデザインセンター 松田社長

お詫びと訂正

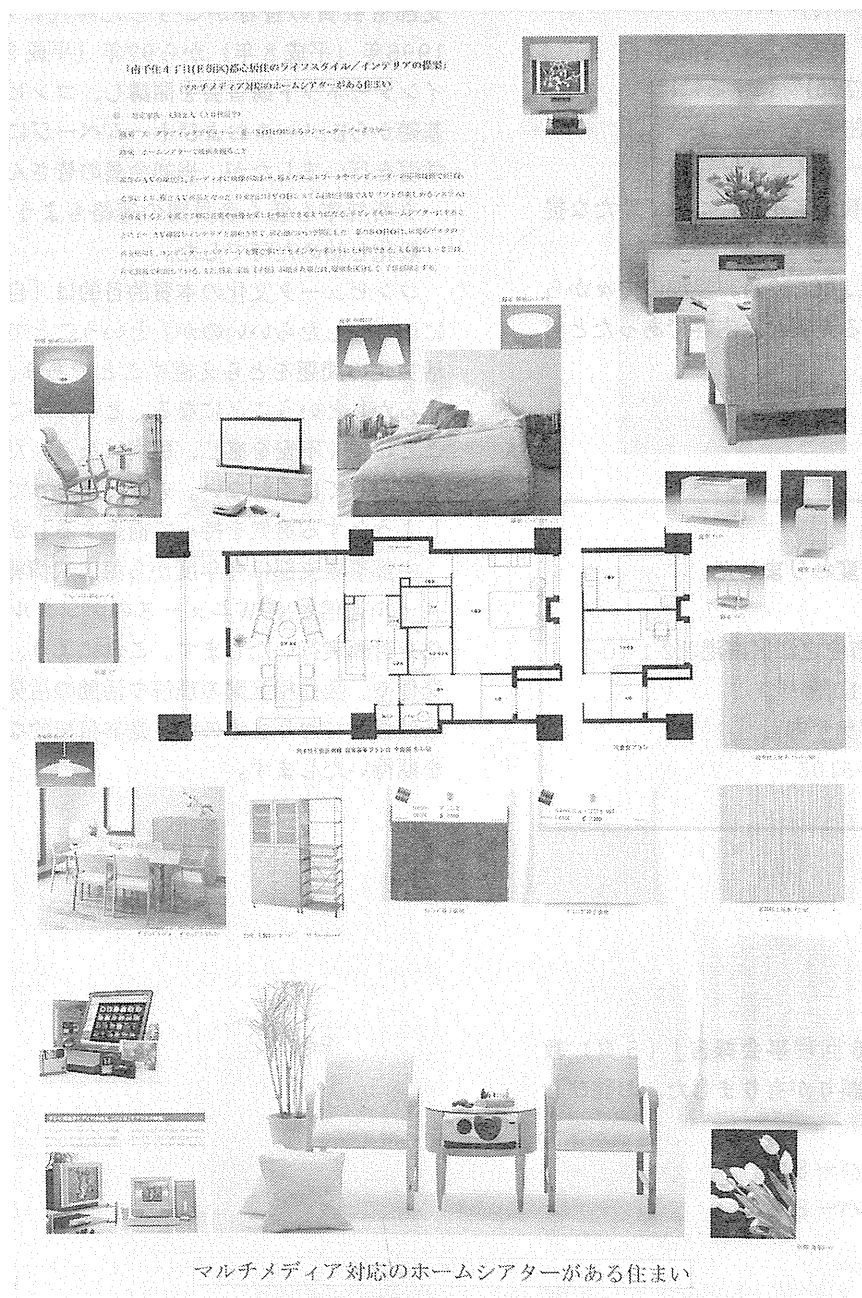
JID NEWS 6・7月号の「ライフスタイル設計競技」の記事中、「SOHO南千住」優秀賞をとられた正会員・藤田哲也氏のお名前と作品が手続き上の手違いで欠落いたしました。ここにお詫びし、掲載させていただきます。

SOHO南千住（川の手に住もう）

優秀賞 藤田哲也／藤田光子

「マルチメディア対応のホームシアターがある住まい」

（文責／泉 修二）



藤田哲也／藤田光子
「マルチメディア対応の
ホームシアターがある住まい」

〈住まいのインテリアを考える会〉

活動報告 No. 1

〈住まいのインテリアを考える会〉

関東事業支部会員 野田 和子

今年1月に登録研究申請いたしました〈住まいのインテリアを考える会〉は、去る5月29日（月）（於 東京YMCAホテル）に、社団法人インテリア産業協会の依頼により、提案発表とパネルディスカッションを行いました。

テーマは『住まいが変わる……プロの技』—インテリアビジネスの行方とICの将来像を探る—と題し、社団法人インテリア産業協会の関東甲信越支部 会員活動推進委員会の事業の一環として行われたものです。コーディネーター：栗山正也 パネラー：村口峯子・野田和子・宮城由紀子・宮代紀子が担当しました。各パネラーの提案発表は、

村口：暮らしを“かたち（空間）”にするには

野田：これからの住宅—SI住宅の本質とは—

宮城：変化の時代—ICのワークスとは—

宮代：仲介役としてのIC業務の広がりについて新たな提案

参加者は、会員企業28名、IC 29名。参加の方々からこれまでに無い大変実のある充実した内容であったと言う評価をいただきました。

関西事業支部事務局が変わりました。

関西事業支部事務局

〒559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10

ATCビル ITM棟 10階

大阪デザイン振興プラザ内

TEL/FAX 06-6615-5105

JID
NEWS

中部

「JID中部事業支部とIT革命」

中部事業支部情報委員会委員長 熊谷 正信

今世紀も後半に入り、時代のメインキーワードは“IT”。新世紀に向けて我がJIDも本格的な取り組みと共に、IT時代に於ける明確なビジョンの発信が求められている状況にある。本部はすでにホームページを開設しておりますが、十分に満足のおける内容と状態になるまではまだ少々時間を必要とすることでしょう。中部事業支部も会員の皆様がこうした時代に対応出来ます様1996年（平成8年）から97年（平成9年）にかけて、インターネット講習会を開講し、コンピュータに関する基礎からEメールおよびホームページに至るまで、実践学習を行いました。当初会員の皆さん自体のコンピュータ所持率も低く会員間の連絡もようやくFAX通信が一般化し始めた時でした。

コンピュータ文化の本質的目的は「自分のために使うにはどうしたらいいのか」ということであり。これは生活文化の問題をとらえ直すことであり、「生活をどう変えるか」ということになる。ところがこの点の「変える」ことに強く不安を感じ、臆病になる。だが時代はこの臆病を許してはくれない。未来に向かって夢とそれを実現しようとする勇気を持って前進するしかない。

中部事業支部は今年度から第二次情報革新としてのEメール通信とNOWニュースのデジタル原稿化による発信を計画実行いたします。これにより、会員個人の情報発信や、会員相互間の理解や活動の活発化に繋がるものと確信しておりますので、是非積極的な参加と、ご協力を期待いたします。

●訂正とお詫び

JID NEWS 211号「第6回理事会報告」（5頁）教育・研究委員会報告の中に誤りが有りました。お詫びして訂正させていただきます。

正・野田和子会員、メンバー8名。

誤・野田和子会員、メンバー8名、

「ECHO賞」スタート

関西事業支部特別部会・部会長 清家 淳一
副部会長 山崎 晶・奈村 今日子

JIDニュース6・7/2000号で発表した関西支部特別事業企画によるJID企業デザインコンペ「ECHO賞」がスタートします。事業の主旨に賛同され出題企業として名乗りを上げられたのはJID賛助会員・スチール家具メーカー《富士工業株式会社》です。さる6月14日同社の小川常務取締役役を迎え、コクヨ株式会社にて八十関西事業支部長、清家特別事業部会長、山本総務部会長ほか関係委員と合同打合わせ会が開催され、コンペの実施に当たって具体的な問題が協議されました。

正式名称はJIDデザインコンペ第1回「ECHO賞」と決定。金賞、銀賞、奨励賞、学生賞などの賞が設けられます。それぞれ出題企業の要求する条件をクリアして同社の商品として生産可能なデザインであることが審査のポイ

ントになります。

応募資格者はJID全正会員および今回のみ関西事業支部学生の会会員とします。若いデザイン力発揮の機会としての位置付けも大切なことと考えています。次回からは全国の若いデザイナーへもチャンスを広げてまいります。

7月上旬に応募要項を会員へ発送いたしますのでこの号が届くころには申し込みを済まされ、アイデアを構築中の方も多いかと思います。締め切りは9月25日です。傑作をお待ちしております。

コンペの実施業務に関してJID関西事業支部は富士工業株式会社と①募集②審査③発表④出題企業と入賞者の契約に関する指導、を内容とする業務委託契約を取り交わしました。委託収益は賞金及び運営諸経費に当てられるとともに関西事業支部機関誌《ECHO》の発行を支える基盤として活用されます。

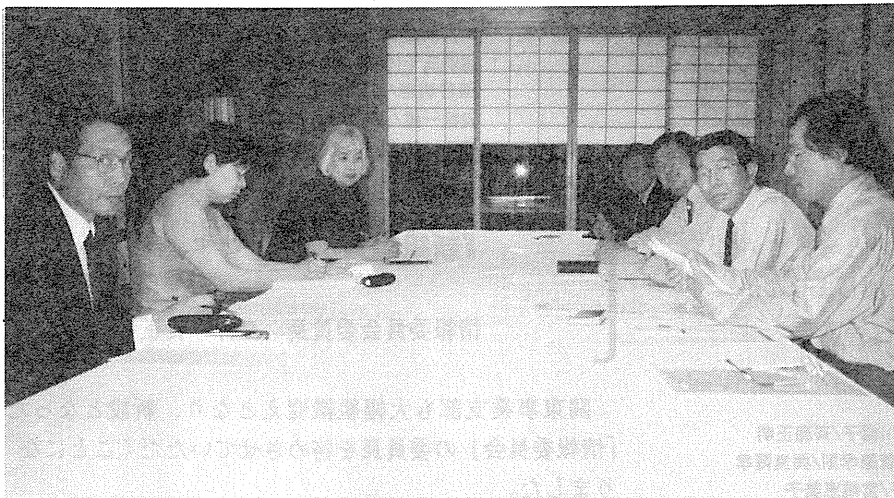
(山崎)

蟻ほど勤勉に働き、 胡蝶ほど楽しく生活する。

支部総会記念セミナー報告 西村 太志

5月20日、ATC交流サロンにて、関西支部総会の後、建築家奥村一氏（元コクヨ株式会社設計部長）の記念セ

ミナーが行われました。「中国雲南省一麗江古城・散見」と言うテーマで、ビデオ、スライドを交えて楽しいお話を聞かせていただきました。良く保存された古い街並は、石畳や街路や、柳の木の植えられた水路のある風景に、ゆったりと時間の流れる人々の暮らしと共に、古き良き時代の私たちのふるさとに、迷いこんだ感じがしました。氏の撮影、編集されたビデオは素晴らしい出来ばえで、約30分でしたが、思わず歴史の1ページに引き込まれるような感動を覚えました。タイトルに記しました「蟻ほど勤勉に働き、胡蝶ほど楽しく生活する」ということばは、この地の中国雲南省の少数民族、納西（ナシ）族に古くから伝わる一節だそうです。何か心に打つものがありましたので紹介させていただきます。セミナーの後の懇親パーティーは、奥村氏を囲んで、賛助会員・「ECHO」協賛企業の方々の多数の参加もあり大変盛況なものとなりました。



エコ賞打合せ 左端富士工業（株）小川常務



『新委員会へのお誘い』

組織委員会委員長 山本 其観代

20世紀最後のミレニアムの開幕、新しい関東支部組織がシンプル化された委員会活動に、会員の皆様参加しませんか。JIDは会員のものです。会員ひとりひとりが21世紀にむかいJID活動の参加であなたの輪をひろげませんか。私も40周年の記念事業に久しぶりに参加し、領域をこえていろいろの出会いがありました。つまらない会だから退会するのではなく、会員の皆様が参加し会が充実し、活発な意見や情報が飛び交うように、又JIDが外部にいろいろコミュニケーションをとり、JIDを知らせる広報活動の強化など価値ある会にしませんか。

今まで活動してくれたメンバーは多忙の中、会のためにボランティアで委員会を支えてくれました。JIDは会員皆様の協会です。委員会に時間的に参加出来ないなど考えず、提案BOXの設置を事務局の中に考えておりますので、インターネットやFAXで参加しませんか。

事業計画も協会の発展の為、インテリアデザイナーの社会的地位の確立に向けて、対外的な活動も考え、21世紀に「つなぐ」をテーマに社会に働きかけていきたいと考えています。成果は会員の皆様の協力なくてはなりません。2000年5月に「JID関東ユース」も120数名の参加で始まり、若者達も張り切っています。若い力の必要を感じました。

急ぐのではなく一步一步重ねていきたいと考えています。組織委員会のメンバーにあなたも参加しませんか。大歓迎です。

◎委員長 山本其観代
◎副委員長 高川恵三郎/藤井 裕
◎委員 垂見健三/今崎 務/石井静香/石川暢子/斉藤正明
下津浦和子/杉富士男/瀬尾 清/菅原孝則/與良博孝
高橋三太郎/中村 昇/萩原多恵子/宮崎恵美子
村元俊子/入江 満/浅野盛治

FAX, インターネットの委員募集中

『新委員会の抱負』

事業推進委員会委員長 栗原 満直

事業推進委員会は旧交流委員会・教育委員会・国際委員会が統合され新しい組織の基に委員の総数は27名を数えます。活発な委員会活動を計る為委員全員参加の楽しい委員会を目指します。年間の基本計画を基に、それぞ

れコアメンバーを配置し、リーダーを設けて各イベントごとに小委員会を開きます。各リーダーは副委員長を兼ねて必要に応じて関東事業支部委員長会議に出席し経過報告を行います。又、組織、情報委員会との横のつながりを強くし、お互いに協力しあいながら行動したいと考えています。これらにより会員がどんどん活動に参加し、次の委員会をになう人材の開発につながることを確信しています。会員の皆様の一人でも多くの方の委員会活動参加をあらためてご案内させていただきます。いつでも声をかけて下さい！

又今期の関東事業支部事業推進委員会の年間テーマは『住まい暮らし再発見』です。日本の住文化にスポットをあて時代を追って住まいと暮らしの再発見をシリーズ化したいと思います。その為のフォーラム/セミナーの開催も計画しています。一方ではシリーズ『デザイン職人四方山話』の第10回～12回を行います。今までは名誉会員を中心にすばらしい実績のある方々に御登場頂き収録・取材が保たれました。今期からは現在活躍している人、輝いている人等にスポットをあて若い人のご登場願うことも考えています。部外ではありますが、鳥取県淀江町とのデザイン供養に対して過去を含め昨年またいへんな町をあげての歓迎を受けました。JIDとして何を淀江町に対してできるか？その模索をすべく当委員会から8名のコアメンバーを配し本部交流委員会に協力したいと思います。

◎委員長 栗原満直
◎副委員長 村元俊子/小笠原ひとみ/佐藤健一/宇田比呂美
◎委員 岡部文絵/鎌田博子/斉藤武行/白石勝彦/立原俊郎
道明三千代/富岡悠紀子/新妻勝之/橋本礼瑚
深谷明恵/舟橋千枝/星富士子/安河内敦子/野口真理
安松一雄/山口勝哉/藤田哲也/池田政勝/山本英嗣
畑中 弘/岩倉榮利/池田和修

『新組織スタートです！』

情報委員会委員長 鳥井 貴正

関東事業支部も大幅組織変えとなり、新設となった「情報委員会」の委員長を務めさせていただくことになりました。

この委員会では、「対外広報活動」「出版活動」「インターネット広報」「記録保存と運用」の4つのテーマを持って活動してまいります。従来複数の委員会で分担していた活動を統括して、内容の重複や連携の悪さを改善し、より効率の良い活動成果を出すのが目的です。

それだけに、責任の重さをひしひしと感じているところではありますが、幸運にも大変強力なメンバーに恵まれ、大変楽しく活動が出来そうと同時にワクワクもしています。

これからも委員会活動へのご理解と、ご協力をよろしくお願いいたします。

◎委員長 鳥井貴正
◎副委員長 竹岡美智子
◎委員 石川 尚/菅野民子/安武満智子/安松一雄/山本英剛

『JID関東ユース発足に寄せて』

JID関東ユース会長 西沢 和彦

2000年5月20日にJID関東ユースとして発足する事ができました。当日の発足式では、大勢の方が脚を運ばれ、また講演会では鈴木恵千代さんの大変興味深いお話を、聞かせていただき無事に終る事ができました。そこに至るまでには、沢山の試行錯誤を繰り返し、沢山の方の協力を得て何とか発足まで辿りつく事ができました。ありがとうございました。

私たちユースは学生中心の組織で運営しております。何分経験が少ないので計画通りに進まない事が多く、見切り発車の状態ではありますが、ユース会員も100人を超す人数となり、徐々に進む方向が定まりつつあります。

ユース全体のながれとしては、やはり学生中心という事もあり、柔軟性と積極性に期待しています。

肝心な中身の方は、ユース対象のアンケートの結果最も多かった意見をもとに、其々各部をつくり運営しています。最新状況としては、ユースのホームページが開設する事が出来、そちらの方で随時各部の状況が把握できるものと思います。

これからのユースの立場で思う事は、社会に出る前の準備段階として学校以外での機関になれる事を想定しています。

私が学生だった頃に、いろいろな不安や疑問がありました。その不安や疑問を抱いたまま社会に出てしまい、とても悩みました。結局学校では課題に追われ、そんな思いは後回しでした。ですがこのユースでは学生同士の交流の場でもあるので、そんな思いもディスカッションなどして、少しでも解決できる場でも有りたいのです。また、より実践的な事ができる場としても考えています。

まだまだ役不足ではありますが、これから進めて行く中で皆様にはご迷惑かける事もあると思いますが、よろしくお願い致します。また、より良いユースの発展には沢山の指導と協力が必要となるので、そちらもよろしくお願い致します。



発足式



懇親会

発表、評価の場を求めて

賛助会員 バンタンデザイン研究所
インテリア学部 石島 康裕

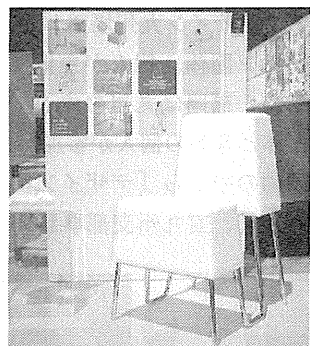
バンタンデザイン研究所（東京都渋谷区）はクリエイターを育成する学校であり、日ごろデザイン教育に携わり感じている事は、学生は学校のプログラム（カリキュラム）によって変化する。学生の質や意識を問題にすることではなく、（やれ才能がないとか、やる気がないとか……）例えば、第3者に発表する場と評価される場を与える事によって、大きく成長するのではないのでしょうか？

学内で家具コンペが実施されている。今年で2回目であるが、最終的にはこの作品達のブランド化構想がある。今回に関しては発表し、評価される場として展示会（10/8ラフォーレ原宿）を実施し企業が優秀作品を商品化する。

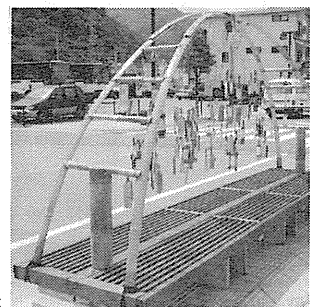
また、毎年1年生が6月に研修合宿を実施している。ものの作りの集しさを体感できるプログラムとしている。今年は山梨県身延町で行った。身延と言えは日蓮宗の総本山の地、なぜ？と問われれば、活性化を願う町と場を求める学校との利害が一致したためである。竹が名物であるため、この素材を使い商店街のサインを8点制作、展示、「願ひ橋」という橋にちなんで竹で制作した絵馬、およびその絵馬を結ぶスタンドを企画、制作し橋の上に設置した。ここでも発表する場だけではなく、町の方々に投票してもらい、評価してもらった。

上記以外にも発表、評価される場はある。ポイントは学校として2回、3回と継続していける内容であること、学生にとっては、評価されたものがどうなるかである。（商品化、長期間展示、媒体に露出するとか……）もし、学生対象のコンペを企画、実施したとする。優秀者が商品、賞金を手にする事に価値があるか？もっと将来的な展望があったほうが良いのではないかと考える。（例えば、審査企業に就職できるとか……こんな時代なので）

協会としてJID関東ユースを設立し具体的にどのようなプログラムを組むのか。作品展やワークショップなど学生が将来的な展望を見出せる企画を是非お手伝いさせて頂きたいと思います。



家具コンペ&展示会風景



合宿での作品展示

九州支部の新役員の出発。

2000年度九州事業支部総会報告
九州支部長 飯田 一博

4月22日、「博多町屋」ふるさと館見学後、藤尾会員（長崎船舶装備（株）インテリア事業部）の設計された福岡市博多区の「はかた市祇園店」において総会が開催され、平成11年度の事業報告、会計報告、平成12年度事業計画案、事業収支予算案、平成12・13年度の新役員が承認されました。

平成12年度の事業計画のコンセプトとして、「JIDとは何かを考え、支部活動のあり方をもっと身近なものとして捉えて事業の推進を図る。」ことが挙げられました。九州事業支部では福岡、北九州、筑後、大分、熊本の五つの地区に分け、地区委員を中心に、地元での交流、見学会、研究・研修会を2ヶ月に一度（年6回）の例会を通して行っています。

福岡市で、デザインの情報発信、デザイン関係者のネットワークの向上、市民のデザインマインドの醸成を目的に「福岡デザインリーグ」が開催され、今年で5回目になります。昨年は様々なジャンルのデザイナー約100名が自由にデザインした作品の展示「デザイナーの玉手箱」、小中学校でのデザインを通したものの見方を教える「デザインキャラバン」、(すべての人にやさしいユニバーサルデザイン)をテーマに市民にデザインを啓発する「デザイン九州場所」などの三つの共同事業と、各デザイン団体、個人が主催する11の自主事業が行われました。福岡は九州の中心でもあり、現在19のデザイン団体と8名の個人が参加しています。デザインリーグの活動の中から「デザイン都市FUKUOKAを創る会」(上野会員、前九州支部事務局も参加)も生まれています。



「博多町家」ふるさと館にて



「はかた市祇園店」にての懇親会

福岡市単独の事業ではありますが、九州支部で参加、今年度も福岡の会員を中心に積極的に参加しようと思っております。

支部事業の大きな事業である、二年に一度の「インテリアデザイン展」の開催年でもあり、デザインリーグの自主事業としての参加も考えております。また、今年のデザインリーグの共同事業としてホームページの製作が挙げられています。九州支部会員も九州の各地に点在しており、情報の発信、確保のために、支部独自のホームページの製作をと、まずJID九州事業支部インターネット調査を行い、その一歩を歩み始めました。新執行部として、2年間、厳しい時代ではありますが、会員が参加しやすい、実りのある支部活動になれるよう努力していきたいと思っております。

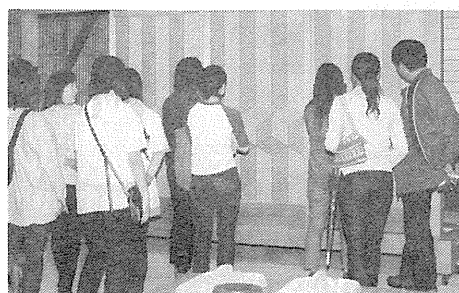
伝統と産業の街大川

筑後地区例会に参加して

九州造形短期大学 2年 高田 季世・久保山雅子
川上 泉・川口 直子

卒業研究で家具デザインを希望しているもの！という飯田先生の掛け声で家具工場を見学できると聞いてわくわくして参加しました。

まず、最初に見学したのは、食器棚のメーカー（株）松田家具工業、八女工場。私達の家具工場のイメージは人の手によりて作られているのだらうと思っていましたが、ほとんどの作業が機械で行われているのに驚きました。毎日毎日、同じことの繰り返しで根気のいる仕事だと思いました。工場でのライン（流れ作業）の多くの過程によって、一つの家具が出来上がることを知り、家具作りの大変さを感じました。その後、松田家具工業の本社ショールームに行き、工場



渡辺建具見学



で量産された食器棚が見事にディスプレイされ、いろいろな生活シーンや、異なる雰囲気が作り出されていました。

昼食とその後の例会にも参加、今回の見学には、九州産業大学の4年生も参加されていましたが、インテリアデザイナー協会の人の「今回のような見学会に、会員と同じ参加費を払って、また、参加希望がありますか？負担はありませんか」という質問に「是非、参加したい。参加したいとおもったら金額の多い、少ないなどは関係ありません！」とはっきり答えられているのを聞いて、すごいなーと関心しました。せっかくの機会で大学生とも交流をと思いましたが、時間が足りずに（勇気がなかったのかも？）、話しができなかったのは、少し残念でした。

その後、渡辺建具を見学、量産の工場とは違った細かい職人の技を目のあたりにして、日本の伝統的な文化に触れ、日本人であるという誇りを持つことができました。そして、未来にこれらの素晴らしい伝統技術を残していかなければと感じました。次に国指定重要文化財旧吉原家住宅と現在も酢醸造を営んでいる大川市指定文化財高橋家住宅を見学、協会の人達と一緒に説明を受けながら見て回りました。大切に保存され、管理されており、昔の建築技術を見ることができました。

最後に、この見学会に参加でき、学生では簡単に見れない素晴らしい経験ができました。すこし、4年生の昼間の発言が理解できるようになりました。今後、こういった行事があれば、是非、私達も参加できればと思いました。

大川見学に参加して

九州産業大学芸術学部デザイン学科
スペースデザインコース 4年 梶 葉子

私たちの世代はインターネットや雑誌による情報にあふれた環境にあります。デジタルで知ろうとする行為は本物を見たいというアナログの欲求をおこすそうです。今回、山永先生の計らいで私たち学生も喜んで参加することとなりました。

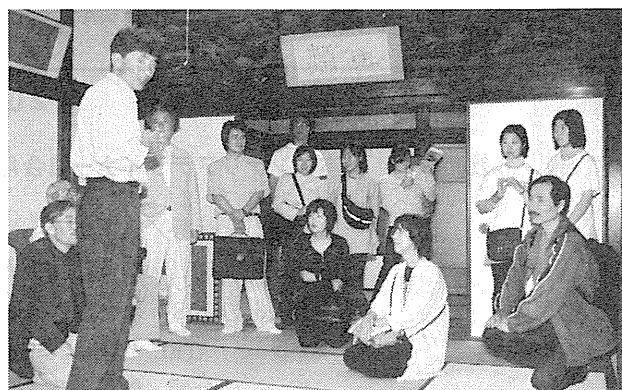
家具工場では、大学の実習で使う機械より、はるかに



左：松田家具工業本社ショールーム見学
右：松田工業八女工場にて

多くの種類の機械が使われ、その機械の精密さ、そして多くの人の手も加わり工程を経て質を落とさず合理的な大量生産システムが行われていることを知りました。工場・ショールームと家具が消費者に渡るまでの一連の流れを見学することで、大川家具現状の一面を垣間見ることができたと思います。一方、大川市では家具工場とは対照的に何ヶ月もの時間をかけ、職人によって制作された建具の数々を見せてもらうことができました。緻密に計算された幾何学的模様の建具に日本の伝統美とデザインを感じました。それは、デザインについて海外のスタイルや新しい物を追い求めるように考えていたこの頃の私にとって大きな衝撃と感動でした。日本の伝統美といわれるものが現代の日本人からかけ離れた古典的な美とするなら、大川で出会った建具には日本伝統を継承し、もう少し手軽に手に入れる事ができるのではないかと、和風デザインの可能性を感じました。また、江戸時代に建てられた家屋を見学しました。現代では再現しにくいような技術や材料が使われており、高橋家では今もその家屋に住まい350年もの酢醸造業を続けられ、そこには、真似することのできない深さや重みを感じました。

今回これらの見学の再、案内される方と先生方のやり取りを耳にすることが度々ありました。個人的に訪問しただけでは聞けないであろう話は、知識の浅い学生の私たちにとってなかなかおもしろいものでした。古い住宅地に神社や寺、漆屋や、酢醸造業を訪れ、ヨーロッパへ旅行したときのような感動がよみがえりました。アルミサッシが窓に使われるような和風住宅に育った私は間違った和風を組織していたようです。日本人でありながら和の空間に飢えている自分に気づかされました。百聞は一見にしかずという言葉の通り、大学で学ぶ何日分もの学習量を一日に凝縮して学ぶことができたと思います。

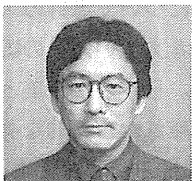


大川市指定高橋家住宅にて

〔 新 入 会 員 の 紹 介 〕

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
ふじつかみつまさ 藤 塚 光 政 会員番号 1179 	<自 宅・事務所> <推 薦 者>	東京都渋谷区千駄ヶ谷1-22-11-206 〒349-0145 TEL 03-5410-9220 FAX 03-5410-9230 大野 美代子・中川 千早
いりやまあきら 入 山 明 良 会員番号 1180 	<勤務先・事務所> <自 宅> <推 薦 者>	(株) デザインオフィス f & f ・東京都新宿北新宿1-28-15 〒169-0074 TEL 03-3362-0047 FAX 03-3360-6575 東京都荒川区荒川7-33-5 〒116-0002 TEL・FAX 03-3891-4150 木村 戦太郎・梶田 尚令

●賛助会員

社 名		住 所 ・ 担 当 者
バンタンデザイン研究所 会員番号 3166	<住 所> <担 当 者> <紹 介 者>	東京都渋谷区恵比須南1-1-1 ヒューマックス恵比須ビル7F 〒150-0022 TEL 03-5721-2086 FAX 03-3760-4101 インテリア学部 石島 康裕 石川 尚

〔 会 員 の 異 動 〕

●ご面倒でも、1999～2000年版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正ください。

●正会員

会 員 名	異 動 事 項	新
橋 本 礼 瑚 (関東 P17)	事務所名称変更	株式会社 C & D

2000/8～9

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (2000年通巻212号) 2000年7月31日発行

発行所／社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人／木村戦太郎

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集／本部広報委員会 制作／be-one